

## 番組終了にあたって

### 日本病院薬剤師会

#### 会長 木平 健治

#### ●はじめに●

日本病院薬剤師会会長の木平でございます。長きにわたって放送してまいりました「病薬アワー」が、今年をもって終了することになりました。長い間、ご愛顧頂き、お聴き頂いた皆様に、私から一言ご挨拶を申し上げます。

ご存じのとおり、日病薬では、MSD株式会社の協賛で、ラジオNIKKEI第1より、毎週月曜日の20時10分から20時25分の15分間、医薬品ならびに薬学に関連する最新的话题を提供する目的で、「病薬アワー」を企画し、全国の病院薬剤師をはじめ医療従事者に向けて放送してまいりました。今回が最後の放送となります。これまでの歴史を振り返りながら、病薬アワーの果たした役割をお話ししたいと思います。

#### ●第1回放送は昭和42年10月4日●

「病薬アワー」は、日本メルク万有株式会社（現 MSD株式会社）の提供を得て、「病院薬剤師の時間」として、昭和42年10月4日から放送を開始しました。第1回の放送では、当時の日病薬会長の東京大学薬学部教授であられた高木敬次郎先生に「病院薬剤師の在り方」という演題でご講演頂いております。

「病院薬剤師の時間」は、病院・診療所に勤務する薬剤師の知識の向上、そして情報の提供という2つの目的をもって、企画は日病薬が行い、日本メルク万有株式会社に提供して頂くという体制でスタートしました。当時、放送された内容は、2カ月後に印刷物として各都道府県病薬に配布されていたそうです。ちなみに、1997年から2000年までの放送分は、「日病薬雑誌」に掲載されております。

放送内容の企画と講師の選定は、現在は日病薬広報・出版部会とラジオNIKKEIの担当者が行っておりますが、当時は、薬剤学、薬理学、薬局管理学およびこれらに関連した領域における最新の知見や問題をテーマとし、講師を全国公募にしていたようです。資料によると、第2回が「製剤技術と吸収」、第3回が「薬局管理と必要性」という内容の講演でした。その後「炎症と薬」「病院と電子計算機」「患者の待ち時間」「調剤室のレイアウト」など、当

時の病院薬剤師が抱えていた問題点を取り上げ、その領域の専門家の先生方に最新情報をお話し頂いていたようです。

また、放送開始当初は、「病院薬剤師の時間」の企画内容について聴取者の皆様がどのように感じておられるかを調査するため、各都道府県から1名ないし2名の番組モニターを選出して頂き、モニターのご意見を、番組の編成に反映させていたそうです。

そして皆さん、BSデジタル放送が開始された頃を覚えていらっしゃるでしょうか？ このBS放送の開始に合わせて、これまでラジオたんぱで放送していた「病院薬剤師の時間」をリニューアルし、2000年12月より「病薬アワー」として放送を開始しました。また、BS放送では「BS病薬アワー」として放送を開始しました。その頃の資料によりますと、BS放送開始当初は、テルモ株式会社と万有製薬株式会社とで、隔月で番組を企画していたようです。

ところで、BSデジタル放送は、高音質の音声に加え、グラフや表・写真といった静止画像も同時に放送でき、短波放送に比べ飛躍的に情報量が増大するという利点があります。また、放送する情報はデジタル化されていますので、インターネットで公開することができるという利点もあり、これを活用してインターネット上での視聴を可能としたポッドキャストイングを実施し、現在に至っています。これに伴い、「日病薬雑誌」への要旨の掲載を中止しました。

しかしながら、残念なことに、BSでの放送は2005年度末をもって終了しましたが、ラジオで放送しておりました「病薬アワー」は、引き続き放送することになり、これが現在に至っております。

メディアを通じた日病薬からの情報提供は、再びラジオNIKKEIの放送のみとなりましたが、日本のラジオ放送をインターネットで同時にサイマル配信する、IPサイマルラジオ (Internet Protocol simulcast radio) サービスである「radiko.jp」が開始されました。2012年4月からラジオNIKKEI第1が「radiko.jp」において全国配信を開始したことに伴い、視聴者の皆さんが、短波放送に加え、パソコンやスマートフォン、タブレット端末でも「病薬アワー」の視聴が可能となり、若者にもより身近な番組となりました。

#### ●最新の情報を提供し続けてきた49年●

次に、「病院薬剤師の時間」「病薬アワー」が果たした役割についてお話しします。

昭和42年10月の「病院薬剤師の時間」に始まり、「病薬アワー」として幕を閉じるまでの49年間、全ての資料は残っておりませんので正確な回数はお示しできませんが、本日までに放送された回数は2,500回を超えています。

「病薬アワー」はこれまで、病院薬剤師をはじめ医療従事者に向けて、医薬品ならびに薬学に関連する最新的话题を提供してまいりました。2006年4月から2016年12月までの615回の講演タイトルを見ますと、時代のトピックスを取り上げていることがわかります。たとえば、2006年には、薬学6年制についての放送や、認定薬剤師や生涯研修、持参薬管理について取り上げられておりますし、2007年には緩和医療薬学会の発足を受け、緩和医療、疼痛管理に関するテーマが取り上げられています。2010年には長期実務実習について具体的な内容と

実施後の結果報告がなされており、2011年には災害と薬剤師をテーマとした放送が企画されています。

このように、それぞれの時代でのトピックスを取り上げ、その情報をわかりやすく解説して頂ける講師を選出し、番組を企画してまいりました。おそらく、多くの視聴者の方々が、この放送を楽しみにして頂けたのではないかと思います。実際、日病薬ホームページ上に展開しているポッドキャストのダウンロード数は、月間約1,000から1,500前後で推移しています。

また、ラジオNIKKEIのホームページには、過去3年分、番組で放送された内容がPDFファイルとして掲載されています。このページが閲覧された回数をみますと、2014年7月は3万4,568回でしたが、2016年10月は6万7,812回と、約2倍になっています。また、2015年4月から2016年10月までのアクセスランキングをみますと、2014年4月に放送された「新しい喘息治療法、AMD療法、SMART療法とは何か」が1位となっており、薬剤師の吸入指導が重要視されている現在、その学術的資料として利用されていることがわかります。

現在は、様々なツールで情報発信が可能となっています。ホームページでの情報提供や、SNSを利用した情報提供、もちろん印刷物での情報提供も重要です。日病薬では、ラジオ放送での情報発信は本日でいったん終了しますが、今後も様々なメディアを利用して、皆さんへ最新情報を発信していく所存です。今後とも、日病薬が発信する情報へ関心を寄せて頂きますようお願いいたします。

## ●おわりに●

最後になりますが、ラジオ放送は音声のみの情報です。しかし音声は、文字や映像よりも臨場感あふれるメディアだと感じています。演者の抑揚や息遣いを感じることで、想像力を膨らませ、情報を強く脳裏に焼き付けることができる媒体だと思います。このようなメディアを通じて、49年間、様々な情報を発信できたことをたいへん嬉しく思っています。これもひとえに、応援して下さいました皆さま、並びにご講演頂いた多くの先生方のご協力の賜物だと感謝しております。本当にありがとうございました。

あわせて、放送開始当初からご提供・ご協賛頂きましたMSD株式会社様には心から御礼申し上げます。また、長きにわたり、番組を放送して頂きましたラジオNIKKEI様への感謝の念は絶えることはございません。本番組はこれで終了となりますが、日病薬が果たすべき責務を全うすべく、今後とも様々な情報を発信していく所存でございます。

49年もの間、ご視聴頂き、誠にありがとうございました。